

名古屋大学大学院生命農学研究科の改組について

大学院生命農学研究科は、平成30年4月に改組(専攻の改編)を行います。

本研究科では、研究科の使命と特色を明確にし、社会の変化に柔軟に対応でき、学生が社会から必要とされる能力を身につけることができる組織と教育プログラムの検討を進めてきました。大学院を構成する「専攻」の名称と構成・内容を、学生・受験生・社会一般の皆さんにとって分かりやすくするため、「学問分野の基本的区分」に即したものに変更します。

平成29年9月5日

実施時期

- ・ 平成30年4月1日

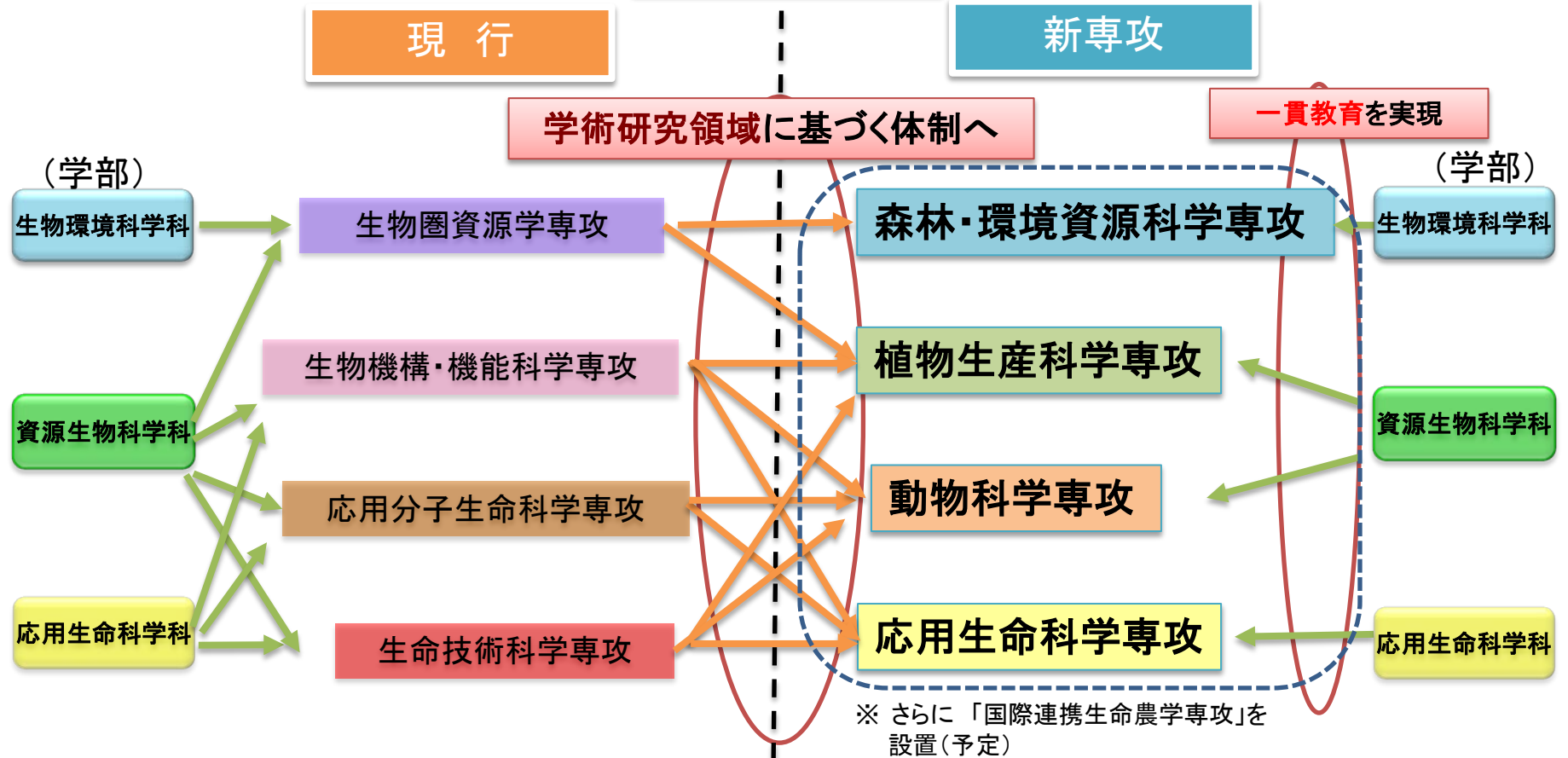
改編のねらい

- ・ 農学における基本分野の多様化・深化を教育・研究に反映し、人類の食・環境・健康の質的向上に寄与する組織体制とする。
- ・ 専攻の構成及び名称を研究対象・方法・関連産業に対応させ、学生・受験生・社会が理解しやすいステークホルダーの目線に立った編成とする。
- ・ 学部生の約75%が大学院に進学する状況(大学のユニバーサル化)及び留学生の増加・国際プログラムの進展(大学のグローバル化)に対応したカリキュラムを円滑に実施できる教育体制とする。

入学定員

- ・ 博士課程前期課程151名(予定・概算要求中)
- ・ 博士課程後期課程 42名

改組の要点



- 1) これまでの「横断包括型の体制」から「学術研究領域に基づく体制」に変更
- 2) 農学領域で体系化された学問分野の専門性を深化させつつ、**新たな知の開拓や異分野との融合**を内発的に行う柔軟な専攻体制を構築
- 3) 各専攻の**特色・強み**(ミッション、人材育成、社会実装)を明確化
- 4) 現行の組織体制での「学科－大学院」の齟齬(ねじれ)を解消
- 5) ジョイント・ディグリープログラムなど**国際教育プログラムに対応**した体制の構築
- 6) 従来の「専攻完結型カリキュラム」から「**研究科基盤型カリキュラム**」に改編

1. 森林・環境資源科学専攻の概要

前期課程定員：27名（予定）

後期課程定員：8名

【目的】森林をはじめとする様々な陸域生態系を対象として、それらの保全および持続的かつ循環的な生物資源の生産・利用のありかたを探求し、豊かで健康な人間生活と環境保全に貢献します。

【研究】生態学、土壌学、水文学などから森林科学、材料科学、さらには環境に関わる社会科学までの広範な学問を基盤とし、森林などの陸域生態系の構造と機能の解明、環境と調和した生物資源の生産・管理手法と環境保全・回復技術の開発、木質バイオマスの特性と機能の解明およびそれに基づく新たな利用技術の開発を行います。

【教育】関連学問領域に関する最先端の知識・技術および論理的思考力を身に付け、環境に調和した持続可能な循環型社会の実現に向けて、環境、森林・林業、木質材料などに関わる学術・行政機関、試験研究機関、団体、企業などで幅広く活躍できる人材を育成します。

2. 植物生産科学専攻の概要

前期課程定員：30名（予定）

後期課程定員：9名

【目的】国内外の食料需給や植物資源利用の多様化、地球規模での環境変動に対応し、植物機能や生産性の改善を通じて、食・環境・健康の質的向上に貢献します。

【研究】生理学、遺伝学、生態学などの基礎科学と、作物学、園芸学、育種学、植物病理学などの応用科学を基盤として、ゲノム科学や情報科学などの先端的研究との融合によって新たな学術領域を創出し、多面的なアプローチで植物の発生、成長、分化、環境応答、および生物間相互作用などの生命現象の原理を解明します。得られた知見を応用展開することで作物生産に関わる課題を解決するとともに、情報工学や社会科学なども活用して農業生産システムの発展に貢献します。

【教育】生命科学と社会科学の理論に裏付けられた高度な専門性と幅広い農学的素養と国際性を身につけ、国内外の研究・教育・行政機関、バイオ・食品関連企業、農業関連企業・団体などの幅広い分野で、食料生産や生物資源利用に関わる課題の解決とより良い社会の実現に貢献できる人材を育成します。

3. 動物科学専攻の概要

前期課程定員: 28名(予定)

後期課程定員: 8名

【目的】動物の持つ多様な機能を解明し、食と健康の質的向上に貢献します。

【研究】生理学、形態学、遺伝学、ゲノム科学などの基礎科学と、畜産学、水産学、昆虫科学、実験動物学を含む応用科学を基盤とした先端的な動物科学研究を通じて、哺乳類、鳥類、魚類、昆虫類など動物の多様な機能を分子・細胞から個体・集団レベルで統合的に解明します。さらにこれら機能の利用技術の開発を図り、持続的な食料生産と健康の向上を通じた豊かな人間生活の実現を目指します。

【教育】生命現象とその仕組みを理解するための体系的な知識、論理的な思考力と、食と健康の向上に関わる課題解決能力を備え、学術・行政機関、試験研究機関、畜産・水産関連産業、食品関連産業、医薬・化学系産業などにおいて、高度な専門性とリーダーシップを持ってグローバルに活躍できる人材を育成します。

4. 応用生命科学専攻の概要

前期課程定員:66名(予定)

後期課程定員:17名

【目的】農学分野における多様な生命現象の機構を最先端の生命科学と分子科学の理論と技術により解明し、その応用展開の基盤を作るための教育研究を進めることにより、食・環境・健康の増進・向上に貢献します。

【研究】天然物化学、生化学、分子細胞生物学など、分子と生命に関する学問を基盤としその理論と技術を駆使することで、農学分野に関わる動物、植物、微生物などの生命現象を支える機構を解明します。これにより、生命機能の高次制御と高度利活用に向けた生物生産と生物関連産業への応用展開の基盤を築きます。

【教育】多様な生命活動を研究するための生命科学と分子科学の理論と技術を体系的に教育し、専門性と幅広い科学的素養をともに身につけ、課題設定・解決能力と探求心に富む人材を育成します。前期課程では、バイオ・食品関連産業、医農薬・化学産業、公的試験研究機関等での技術系の職に携わる人材の育成を目指します。後期課程では、大学や研究機関、企業研究部門等で独立して研究や高等教育に携わる人材の育成を目指します。

名古屋大学大学院生命農学研究科在学生の皆さんへ

- ・ 改組は平成30年度入学生(博士課程前期課程・後期課程)から適用され、学年進行で実施されます。したがって、在学生の皆さんは、現在の専攻において、入学時のカリキュラムにより学修し、修了することになります。
- ・ 留年した場合は、修了要件単位となる科目の読み替えが必要となります。

名古屋大学大学院生命農学研究科を受験した(する)皆さんへ

- ・ 平成29年8月に実施した入試(博士課程前期課程)は、現行の専攻で募集・試験・合格発表が行われましたが、平成30年4月の入学に向けて、新しい専攻で入学手続きをすることになります。
- ・ 平成29年12月以降に実施する入試(博士課程前期課程・後期課程)は、新しい専攻で募集・試験・合格発表が行われます。